

水間病院

| | | | |
|-----|-------------|-----|-----------------------|
| 住所 | 貝塚市水間5 1 番地 | 電話 | 0 7 2 -4 4 6 -1 1 0 2 |
| 病床数 | 5 4 1 床 | 病棟数 | 9 病棟 |

人権センターニュース No.84 より

オンブズマン活動報告

平成 19 年 8 月 31 日訪問

平均在院日数 523 日(平成 19 年 10 月 1 日時点)

病院全体

病棟によってはハード面で古いところもあるが、少しずつ改良を加えているのが窺われた。全てのベッド周りにナースコールとカーテンが設置されていた。1~4人部屋。個室料金は3000~7000円。病状による使用は料金を徴収しない。病棟にはグループホームのニュース、複数の社会資源の情報、患者の権利宣言、レクリエーションの写真、OT作品の展示、水槽等があった。各病棟で囲まれた中庭に面して喫茶、売店、図書室、交流室(机、椅子、灰皿があり、自由に出入りできる)があった。各病棟から患者が出てきていた。植物やベンチが置かれ、くつろげる場所がいくつかあった。

病院側の説明 週2回、緊急措置診察と救急の受入れをしている。そのために3病棟の4人部屋を2人部屋に改装する予定。受入れの日は準夜や深夜帯は看護3名態勢で、師長クラスも1名配置。OT、理学療法、言語聴覚療法、SSTを実施している。心理職も積極的にかかわり、退院に向けての情報提供や支援をしている。決まった曜日に院内で歯科治療が行なわれる。

(1)人権擁護委員会：年に1~2回外部から講師を招き、勉強会を開催している。人権擁護委員会の中に接遇改善委員会がある。意見箱は外来と病棟にあり、月1回回収し、接遇改善委員会で検討される。回答は投函された病棟に掲示したり、患者に直接伝える。

(2)行動制限最小化委員会：設置している。

(3)担当制：担当看護師がいる。PSWは病棟担当制。

(4)診察：各病棟にある診察室にて週に1回以上。

(5)服薬：看護師が患者のところに持っていく。

(6)外出：開放処遇の中に院外外出、院内(中庭まで)外出という2段階がある。開放病棟は8:00~16:30中庭まで自由に出られる。院外外出は中庭と病院玄関の間にある扉をあけてもらって出る。

(7)金銭管理料：2000円/月。鍵付きロッカーは300円/月。基本的には自己管理をすすめている。

(8)食事の選択メニュー：4回/週(昼・夜)。

(9)入浴：週に3回。

(10)面会：病棟に面会室がある。面会時間は原則8:00~17:00。

(11)携帯電話：入院時に持込みできない。

(12)院内売店：ある。病院管理の患者は「つけ」で支払い、レシートを受け取る。

(13)PSW：事務所に相談窓口がある。PSWは9名(精神保健福祉士は6名)。退院促進事業の会議や西成のヒューマンライツとの連携のための会議等に参加している。グループホームが4つ(定員30名)、制度外の共同住宅(一軒家で定員7~8名・個室・家賃2~3万円/月)もある。病院敷地内にあった地域生活支援センターは数駅離れた街中に移動させた。

1 病棟 (精神一般15:1・開放・男性)

病院側の説明 院外外出は、用紙に家族の同伴の有無、行き先と目的などを記入して詰所に提出する。平均在院日数は5~10年。昨日入院した患者から40数年入院している患者までいる。精神科救急の入院はこの病棟で受け入れている。

病棟の様子 デイルームではOT2名が中心となり患者約20名がボールの的当てをしていた。相談室のような部屋では、患者2名と職員1名で話をしていた。【隔離室】2室ずつ、2ヶ所に分かれていて、詰所からは階段でつながっていた。洋式トイレがあり、囲いなどなかった。前の廊下に食事用の机があり、灰皿や箸箱が置かれていた。扉は、曇りガラス風の強化ガラスだった。病院側の説明「急性期の患者は、だいたい2週間で出られる。認知症などの患者は、専門の病棟に移る。患者の声は呼んだら聞こえる。入室した患者が不穏な時は、集音マイクをオンにしている。煙草の時間は決まっている」

【病室】入口はスライド式扉が閉められており、真ん中の強化ガラスの部分には室内で寝ている方の顔が廊下から見えないよう目隠しシールが貼られていた。使っていないベッドを見ると、幅が狭いパイプ式で塗料はひびだらけだった。マットは失禁した跡がたくさんあり、「干して乾燥はしているが、なかなかとれない」とのこと。部屋の中に私物がなく、「1室を私物庫として使い、鍵をかけている」との説明だった。個室が6室あった。

患者の声「入院して8年。衣類はベッド下のケース1個にある。中庭の『交流センター』に飲物を買に行くのがやっと」「福祉のお金は、1人ずつ、ロッカーの中に持っている。お金の出入りはコピーした用紙を渡してくれるからわかる」「10年でしかない長い年数、ここにいる。もう元気がない」

3 病棟 (急性期治療病棟・閉鎖・男女)

病院側の説明 不穏状態の患者に職員が多くの時間をかけるようにしている。隔離室に入りっぱなしではなく、隔離を中断してサロンにて職員が対応する。

病棟の様子 新築した病棟と改築した旧病棟が廊下で結ばれていた。新築の病棟にある男性病室には鍵付きの大きめのロッカーや木目調で小物収納が可能なベッドがあった。旧病棟の女性病室は天井が低かった。床頭台はなく、棚があった。衣装ケースを貸し出している。白パイプベッド。トイレ付(3000円/日)やトイレ洗面付(5000円/日)の個室もあった。

【隔離室】隔離室ゾーン入口付近にシャワーとトイレが設置されていた。3室あり、一番奥のみトイレ付。手前2床は入口近くのトイレを使用する。隔離室の正面は曇りガラスで明るい。詰所からは少し離れている。マイク付きのモニターを設置。訪問時は入室者はおらず、看護者とデイルームで過ごしていた。

【デイルーム】大きなスペースで、ソファや水槽が置かれるなど、くつろげる雰囲気作りの配慮が感じられた。机に名前が書いてあった。詰所は窓もドアも開けてあり、たまに患者が顔をのぞかせて看護者に話しかけている姿が見られた。看護師の多くがデイルームに出ており、師長の言う「患者との関わりをもつ」ことが実践されているように思われた。

【トイレ】洋式や車椅子用もあった。ロールごと流す人がおり、詰まったことがあり、トイレットペーパーは設置せずに病院が患者に渡しているとのこと。

6 病棟 (精神療養・開放・男性)

病院側の説明 平均年齢57歳、40代~80代まで。OTに行く患者が多い。ほとんどの患者が鍵付ロッカーを使用している。車椅子使用者は7名で、理学療法士のリハビリプログラムに参加している。

【入浴】午前9~11時に介助が必要な患者が入ると、一旦湯を流し、午後1~3時に介助が不要な患者が入るなどして午前と午後にわけている。更衣室が狭く、車椅子が入口付近までしか入らないため、入口付近で脱衣する。カランは2つ。

病棟の様子 隔離室は1室。訪問時、日中は開放で使っていた。トイレ周りに囲いがなく、壁の色が濃いモスグリーンで少し暗く感じた。個室が4室あり、転倒防止や身体保護のために外から施錠して使用する時もあるとのこと。

7 病棟 (精神療養・開放・女性)

病院側の説明 慢性期の長期入院患者が中心。平均年齢は65歳くらい。院外外出する患者は、週に1名程。閉鎖処遇の患者は付添で売店に行く日が週に1回決まっている。薬の自己管理は2名。月曜と土曜以外は毎日、午前と午後違うメニューのプログラムがある。OT や SST を通して退院支援をしているが、多くの患者が退院したいと言わないことは課題。

病棟の様子 もともと2つあった病棟を1つにしているため、1階部分と2階部分があり、メインとサブの詰所があった。デイルームも2カ所だった。廊下にも絵画がいくつかかけられるなど、古い病棟ながらも和む空間をつくる工夫を感じた。

【隔離室】5室。詰所からデイルーム、診察室を隔てたところにあった。床から天井までの鉄格子があった。和式トイレ横の格子の外側にスクリーンが置かれていた。サブの詰所横にある隔離室は病室を改築してつくられたものだった。洋式トイレの囲い、水洗ボタン、ナースコールがあった。ブロックガラスの窓があり、明るかった。見やすい位置に時計とカレンダーがあった。その他、個室が4室あり、何室かは夜間のみ施錠して使っていた。

【トイレ】和式。ナースコール、手すりがあった。洗面台の蛇口がとてめかたく、最後まで閉めにくいため水が出たままのところは何ヶ所もあった。

【病室】外側の窓にはカーテンのある部屋とない部屋があった。多くのベッドのまわりには私物や作品などが置かれていた。ベッドは幅が狭く、高めのように、落ちる患者がいるとのことで、床にマットがある部屋もあった。畳部屋が1室あった。

患者の声「スタッフは良い人。優しい。居心地がいい。ご飯が美味しい」「先生は話をよくきいてくれる」「看護師はやさしい」「よく話をきいてくれる」「食事はおいしい」「個室なので落ち着く」「病棟担当のケースワーカーは知っている。病棟に来る」「きょうだいも結婚し、帰る場所がない。ここに一生いるのだろう」「居心地はいい」「足が痛くて和式トイレが使えないのでポータブルトイレを使っている」「9時頃が消灯でいっせいに電気が消される」「看護師はナースコールをおせばすぐにきてくれる」

10 病棟 (精神一般15:1・開放・男女・54床)

病院側の説明 全員が院内外出可、22名は院外外出も可。薬の自己管理24名。病棟専属のOTがいる(週5日)。レクリエーション活動や月1回イベントもしている。グループホームでの入居体験もできる。

病棟の様子 詰所のドアは施錠されていない。日中はデイルームで過ごす患者も多いようだった。高齢の患者が多かった。床はタイル様の絨毯で、ソファや畳スペースなどくつろげる工夫もなされている。

【病室】4人部屋が中心で広め。ほとんどの部屋にポータブルトイレが置いてあった。床頭台は全員にあり、衣装ケースなどを使用可。

【喫煙】病棟の中に中庭のようなところがあり、灰皿が設置され、ライターは紐で固定されていた。

【トイレ】洋式と和式で、ナースコールがあった。

患者の声「(プログラム活動など) やることが多くて忙しい」「病棟生活は、看護者もやわらかい感じで過ごしやすい。詰所に用があるときは、詰所のドアの外から声をかけている。電車に乗って外出することもある」「週に1度の詰所での診察」「ざっくばらんにスタッフと話ができる」「看護師は優しい」

検討事項

【任意入院患者は原則として開放処遇を】

開放病棟はあるものの、中庭より外に出るためにはさらに鍵をあけてもらう必要があった。(病院側の回答: 10病棟について今現在個別開放患者を増やしている状況であり、その他の患者さんについても転棟を視野に入れ本人や家族に了解をもらいながら進めています。将来的には開放病棟への転換は変わりありませんが、まだ具体的な年月日はお示しすることはできません。)

【隔離室のトイレ周りの囲い】 1 病棟

隔離室のトイレ周りに囲いがなかった。(病院側の回答：現在救急システムに参画し、隔離室の確保に苦慮している状況であり、利用状況を調整しながら年内を目途に囲いを設置する工事に取り掛かります。)

【公衆電話の設置場所】

3 病棟は詰所カウンター横、7 病棟は詰所小窓と詰所出入口の横、10 病棟にある 2 つの電話のうち 1 つは詰所カウンターと喫煙スペースや外出用通路の横にあった。(病院側の回答：3 病棟・7 病棟については囲いを設け、10 病棟については移設いたします。)

【病室のプライバシー】 7 病棟

病室廊下側の窓は曇りガラスやレースカーテンで目隠しをしている部屋もあったが、それがない病室もあった。(病院側の回答：すでに実施済です。)

【脱衣所のエアコン】 6 病棟

脱衣所にエアコンがなく、入浴時は浴室の窓は網戸にし、脱衣所では扇風機を使うとのことだった。「夏は暑く、冬は寒い」との声があった。(病院側の回答：夏場については今まで大型扇風機 1 台を設置していましたが、今後壁掛け用の扇風機を 1 台増設し、冬場については温風ヒーターを設置します。)

【病棟地図の掲示】 1 病棟、7 病棟

建て増しなどにより、病院の構造が複雑だった。(病院側の回答：避難経路の入った病棟地図を全ての病棟へ掲示いたします。)

人権センターが情報公開請求で入手した

H19 大阪府精神保健福祉関係資料より (水間病院分)

506 名の入院者のうち統合失調症群が 248 名(49%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が 167 名(33%)、精神作用物質による精神及び行動の障害が 37 名(7%)、入院形態は任意入院 227 名(45%)、医療保護入院 278 名(55%)、在院期間は 1 年未満が 119 名(24%)、1 年以上 5 年未満が 164 名(32%)、5 年以上 10 年未満が 89 名(18%)、10 年以上 20 年未満が 63 名(12%)、20 年以上が 71 名(14%)、(H19.6.30 時点)